

著名一般歯科臨床医および矯正歯科医の咬合論から、
明日の臨床咬合のヒントを探る

別冊 Quintessence

咬合YEARBOOK 2018/2019

咬合

と

矯正

歯科治療

監著 前田芳信 | 編著 古谷野 潔 / 山崎長郎

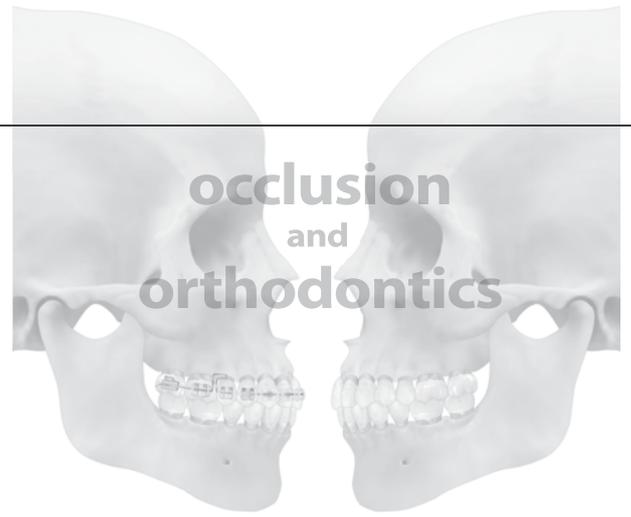
2015年12月に初刊行し、好評を得た『咬合 YEARBOOK』の第2弾。今回は「咬合と矯正歯科治療」をテーマとした3章構成。1章の総論では、「矯正歯科治療と咬合Q&A」と題し、矯正歯科に関する文献群から、その咬合に対する種々の考え方を整理。さらに「顎関節症との関連から矯正歯科治療と咬合について考える」と題して、矯正歯科治療による顎関節症の治療や予防について考察している。

2, 3章では、矯正歯科医(2章)と一般歯科臨床医(3章)が各自の咬合論、咬合と矯正歯科治療との関係性、治療連携上の要点を論述し、そのゴールを症例報告。

本別冊により、矯正歯科治療における咬合の共通項が浮かび上がり、明日の臨床のヒントになることが期待される。



CONTENTS



1章 総論

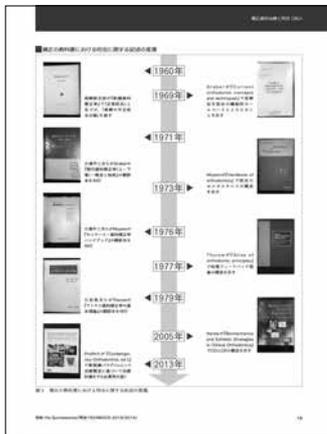
- 1 矯正歯科治療と咬合 Q&A
達成すべき適正な咬合は存在するのか？ それを長年に安定するといえるのか？
前田早智子／前田芳信
- 2 顎関節症との関連から矯正歯科治療と咬合について考える
古谷野 潔／大木郷資／桑鶴利香

2章 矯正歯科医の視点からの咬合論

- 1 重度の顎関節症症例への矯正および補綴治療の1症例
筒井照子／筒井祐介
- 2 矯正歯科における咬合
宇津照久
- 3 矯正歯科治療がめざす咬合にヒントとなる8020達成者の咬合の観察より
茂木悦子
- 4 「下顎位の安定を図る」
一咬合治療におけるその重要性—
足立 敏
- 5 MRI を用いた機能的安定位における咬合再構成
洪澤龍之

3章 一般歯科臨床医の視点からの咬合論

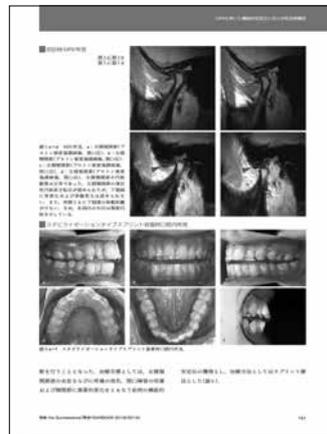
- 1 矯正歯科治療とのインターディシプリナリー
山崎長郎
- 2 包括的治療を必要とする難症例へのアプローチ
大谷 昌
- 3 咬合再構成に包括歯科治療を融合させた咬合論
佐分利清信
- 4 顎頭位を考慮する矯正歯科治療から咬合再構成を考える
荒谷昌利
- 5 変化に寛容な矯正治療の咬合と厳格な補綴治療の咬合の調和を目指して
綿引淳一



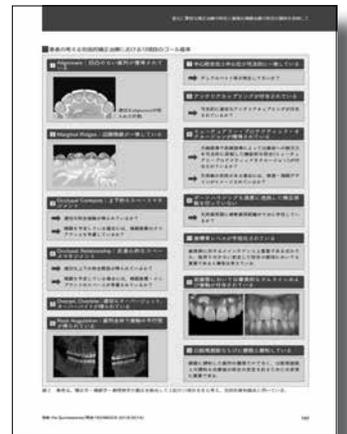
1章19ページより



2章52ページより



2章121ページより



3章193ページより

きりとり線

注文書

ザ・クインテッセンス別冊 咬合 YEARBOOK 2018/2019

モリタ商品コード:208040148

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	

支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送り致します。